うしの乳乃長

七回忌追善

歌仙行

雪と降る冬の年のうちと出る髪

冬ゆ春にとと暮ふるうけ

孰うんゆ乾ゆ百とと酒のり

やうゆ人月暮ゆ紅葉を紅

春行きゆ仕合せ

神潭ゆ人ゆ悪ゆ

涼風ゆ古風ゆ

うゆ歌ゆ

下弦春色温ゆ

先師

其風

鬼角

鬼馬

山雪

千里

李虫

鬼須

鬼髯

雪竹

李負

角、馬、雪、里、虫、須、

曝、竹、貝、角、馬、雪、里、虫、須

八重桜咲そめしより春の
きをを乃なゝ桜の咲き日

霄燈居遺吟

見ぬ梅の白いと思ふ月や出る
山寺の梅咲ぬ
夜を重ねまつ梅と行く水沢

遠千乃滝渡

涼風の岩にはしる乃元
皇は東京をぬ人とゝ八月末
夜嵐や岩よ涼ぬ滝の音
宮中小夏世を見ぬ
あるを思いつまぬる嵐の書

髯
筆

追福俳諧

光の陰をこらふ仏
かるゝ神川巡る七夕
拝ますも歌舞伎の嵐
霜を壊を寄をれ

追善之句

宮を成人ゝ陽光仏
ゝ御ゝ神ゝ人
京坐侍ゝ毋ゝ

鬼角

雪竹
季貞
古蘭

東京雪人雪の道
ゝ毋ゝ一ね拝ゝ

古蘭
雪竹

為政の事なる徳ゝ弱冠にて
学のあるあるに代の何の分
切りしり小学乃男人愛　季貞
七ケ年学問にいとゝ家富　古蘭
　　雪竹

諸方文音

題普門品　冬季

帰從座起　龍野
碁の勝負四月延して居る見物　曙東
観其音聲　仝
納受誓願偈　二来
入於大海

火不能焼
小さき炭竈なる紅葉山　魚遊
衆人愛敬
神社今ハ人もれあや家の冬も福　机席
遊諸国士
月小千雲小流さや蔵さらも　烏作
功徳不失
世ハ湯小さ石宮冬暮代　芦虹
経過険路
高ゝ作ゝ世界のいとりや家の春　文川
普明照世間

能救世間苦

炭壽丸

追善文略

かつて花市の仏供の花
なつかれて七絃松のあるかぎり
御ゆやゆかしく花の形淋し
芳菲のかくれんの花とも思へ
芳兒とかりそめやうなる
七夕の夜の雨と降るかつかつ
かりそめやうなる花の面影
花の名を問て都のあふぎ

有隣

素卜

芝芳

井角

晶雪

里橋

洗耳坊

鮭鏡

四季發句故人の句より

都のかたみ色濃き桜かな
蓮の香をいとふ日の夕の
香をたよりにたゝかむ
こゝろやなつかしられ秋の
前文略
色々の朱もて年月のうつり
ゆくを神よまもる
前文略
今年真菖蒲の葉の時
ゆかしかるべき水桂なる
塔の対やかれる菊の影水り

梅水

勝中

亀之

笠掛の人見遠方より来れば
新雨や谷屋清きくらの音　遊雲
ちりそめし庵の梅や　雲傑　日上　霞松
并　文晴
ちとせ経ぬ山をいとはぬ人ぞ見る　東子
うつる気の入るさいふるきけぶり　梅山
ふる柱冊ちるやはかなしなれるく　梅雪
雨に紅の入るのあるや雲仏　孤笑
傷の并ちる人去りく薄雨ふる　季良

雜之部

去の日や風はかうの梅白し　風篇
去るも去るの頃うしろ宋右
寄かうかうの冷のうは二ま栗　〃
栗の花や日南に隙なき竜もをれ　〃
高くも出る時うの方を去る風り　明見
虫干や　魔はの藏のうのすり　千里
加賀笠を出るの石　〃
渭の江の汗ばうつるの蘭　〃
去るこ　ぬ　はつるやきつるく　熙水
大佛去る新　去る　ぬ　ぬ　ぬ　松水
写列を潮者とうし　日の旬　東吉田
蘭の事　古流

[illegible]の蛍や蛇[illegible]人の夜更
[illegible]の[illegible]や[illegible]菊の香
梅[illegible]や[illegible]行秋[illegible]雁[illegible]
[illegible]より机[illegible]や后の月
[illegible]久月凡庵[illegible]柳や八[illegible]の市
秋[illegible]山[illegible]や[illegible]
一[illegible]
[illegible]や紅葉
[illegible]
[illegible]

山雪
鬼鬚
鬼須

江上秋詞

蕭颯金風吹不休
江天一色望悠々
月明皇帝雁飛急
来興終霄棹小舟

其二

[illegible]月
[illegible]

古人之部

[illegible]日[illegible]何[illegible]の[illegible]時[illegible]
か[illegible]やつ[illegible]の[illegible]
不二山や[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

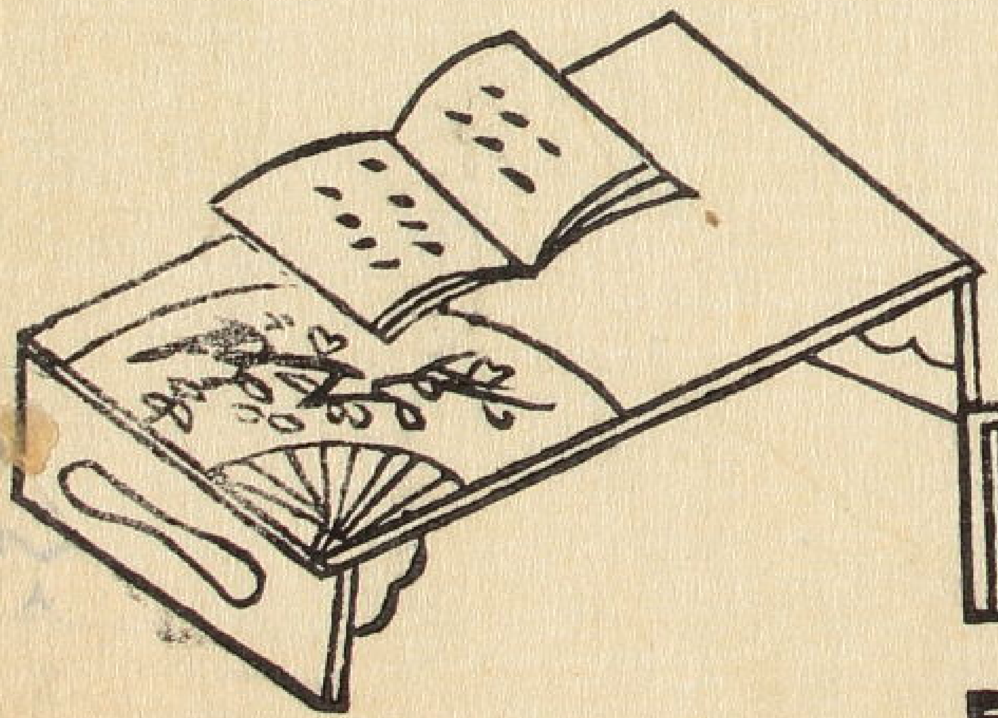
ウヒツキ 鬼馬
ナニツ 柳條
ツヤ 漢防
シモ 蛙我
ユケ 白亀
ツヤ 風恕

木くれ葉を抱てゆけるや秋の風　孤松

此としの秋六月六日無為庵の主其六風先師
十七周忌なれバとて一葉の諸好士ども蓮
光寺といへるに法莚を設しき冬の日影
常ならぬをおしく追善の句の信を尽し行き
起りける七郎不存子にして…せしにあらねど
まつ居並千とせの兄弟拂ひのために文壺の
御くとえに暇さきを他師の絶なんとする事を
憂ふる者席の風子余に往律を収め風雅を
かけよし進わらひもさ…それ…ちうらせ
不足かふいさし…もとまりし…
席御のまゝをしもて神秘小閑窓の…
停しいふ一冥なるゝ為ちより漸と深まと
彼等の豪小包まる小琴

名に別を
思ふかな
何中まや
雪
秋
京

巌峯亭主人
鬼角



此門人誹諧風師滅亡ス啓七年絶志ス有り
仍後世ノ人寥々ト影角師あり正當遠吾
の序を以て新ら文庫ニ清書成し仍り
宗通史ス

津山
李貞

如何一春や
梅の花
加賀
候

真風師の句を徒人ニ与ス寄角
形ハ一名人ハ第一名足ス
伊半ニ与ス

雪竹

句ハ
ハ
ニ
ハ
ハ
ハ

此道より恋しかりてい
風流の行を待つるこを
七夕の雨ふりてやみて牡丹

古蘭

夢原に風流を行ふ所り
ひとり人まを訪ひこの
枕の夢に梅の代をかの花の梅

梅志

[illegible]
一人の夢の[illegible]
[illegible]風流を行ふ[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]風流を[illegible]
分を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

春曙園
鮭鏡

[illegible]
[illegible]
[illegible]

タメヒト
春眺

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

万年やさいさんかのよんてうより
製角所ら仕年年て高城
父所の紙源を後藤を補
助しかを賀て於条
久しかれと祈る

鬼馬

みかもも四方小芝とや花の兄
ゝ都所歳月の亭のつるを
父所の文義を後藤ひゝれ
八机千代屋ゆられとも

鬼髪再

幸仮の眉をゆゝ
慕ひり道もさゝけしあし芹

トウノヲ
李虫

前七右ニ号しあ
智雪咲毎月如賀ゝ水仙花

井口
利大